鎌倉パートナーズ

鎌倉市市民活動センター広報紙　第110号　　令和6年　春光号（季刊）

発行／編集：鎌倉市市民活動センター https://npo-kamakura.com/

リレートーク No.29

防災ボランティア
ドリームチーム「集結」
隊長　林　和夫

2011年の東日本大震災をきっかけに生まれた災害ボランティア組織で隊長の林さんは鎌倉市在住。建築士の技術を活かし、今回の能登半島地震では2月に珠洲市へ赴きました。

防災ボランティア
ドリームチーム「集結」
のサイトへの
アクセスはこちらから

日本全国、いつどこにでも展開できる災害ボランティアチーム

私たちは、消防のレスキュー隊OBが中心となった全国発の消防OBによるボランティア組織です。発足のきっかけは2011年に起こった東日本大震災でした。東京消防庁のOBらがボランティアチーム「集結」を結成したことを受け、全国の消防士にもその志と輪が広がりました。

今やその熱意が、消防の枠を超え、建設業や各企業などの有志たちに飛び火し、「日本のために頑張る」という者たちが、“集い結ぶ”まさに、ドリームチームになりました。その後も全国各地に同種の団体ができ、地震や水害などの災害時に非番や休日を利用して被災地で支援活動を続けており、現在全体の会員数は約300人ほどにもなります。

かくいう私も本業は現役の建築士です。報道などで皆さんもご存知かと思いますが、今回の能登半島地震では、地震と津波による建物の倒壊・損壊が相次ぎ、道路の損壊なども目立ちました。私は２月中旬に石川県珠洲市に行き、現地で２週間ほど活動を行ってきました。具体的には、ブロック塀の解体、屋根のシート張り、危険な倒壊家屋から貴重品の取り出し、壁・床はがし、倒壊したお寺の鐘楼を重機を使っての運び出し作業などです。このように私たちは、技術集団ならではの一般ボランティアさんが入りにくい場所やできない部分をメインに、それぞれのメンバーが持っている技術・経験を最大限に生かした作業を行っています。

珠洲市では、いまだに水道が復旧していない地域があり、食事、トイレ、風呂など毎日の暮らしは本当に大変でした。自衛隊風呂が設置されていますが、被災者優先でボランティアは３，４日に一回程度しか入れません。皆さん、水道がでない生活を想像してみてください。
決して他人事ではありません！

引き続き、私たちは被災者が要望する全ての活動と長期支援を目的として、直接行動で住民の手助けを行っていきます。被災地の一日も早い復興を願いつつ、微力ではありますが、地道に息の長い活動を展開していきたいと思っています。

報告　懇話会「能登半島地震から学ぶ」開催

令和6年1月1日、石川県能登地方でM7.6の大規模な地震・津波が発生しました。
厳しい寒さの中、大変な思いで過ごされている被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

この甚大な被害をもたらした災害を受け、２月11日、NPOセンター登録団体懇話会を急遽「緊急企画！能登半島地震から学ぶ」とし、現地へボランティア活動のため駆け付けた団体メンバーの報告を中心に鎌倉生涯学習センターで開催しました。

鎌倉ガーディアンズ、七七支援隊、防災普及学生団体Genkaiの３団体が現地で見てきたもの、感じたもの、考えたことなどそれぞれの目線で順に発表しました。今回は、能登出身の紙芝居師なっちゃんこと中谷奈津子さんも合流し、2月にやっと帰省して見てきたものを報告していただきました。

現地では・・・

想像以上に道路事情が悪く、現地入りするまでに片道15時間もかかってしまったこと、実際に手伝って感じた避難所運営の様子、活気のある避難所と重苦しい空気の避難所があったこと。能登への移住者が手がけていた「排泄物を肥料に変えるコンポストトイレ」がとても役立った話、瓦が飛んでしまいその屋根にブルーシートをかけるだけなのに、ひと月もかかり、倒壊は免れたものの水浸しで結局は取り壊すことになってしまった話など。報道を超えるリアルな話が繰り広げられました。

日頃から防災訓練や祭りなどで密な地域住民の信頼関係を築いていると、発災時にも声かけが盛んで避難所運営の体制作りまでが早いとか。

熱心に聞き入る聴衆からの質問内容に、“今日から始める本気の防災”が感じ取られました。

計画的な備え、地域連携の重要さなど、お互いに今後の防災活動のヒントを得ていただけたことと思います。

七七支援隊

災害ボランティアに参加希望のみなさんへ

一刻も早く被災地の役に立ちたい！と思う方もいらっしゃるでしょう。ただ、災害ボランティアセンターの受入れ体制も町により差があり一律ではありません。さらに、時間の経過とともに、状況、支援ニーズは変化していきます。必ず、最新の正確な情報を得てから、被災地に迷惑がかからないようしっかり準備することが大事です。

全社協被災地支援災害ボランティア情報

また、現地へ行って活動せずとも募金や観光支援も大切な被災地支援です。最近ではクラウドファンディングも始まっています。災害直後だけではなく、息の長い支援を続けていきたいものです。

鎌倉ガーディアンズ

防災普及学生団体　Genkai

こぼれ話

こぼればなし

現地でボランティア活動の際、何度も「**気の毒な**」と被災者の方から声をかけてもらったとのこと。
気の毒なのはそちらでは？？？

実は、能登の方言「気の毒な」は、相手への最上級のねぎらい、感謝の言葉「**ありがとう**」を意味するのだそうです。

シリーズ「協働」

「協働」の好事例をご紹介するシリーズです。組む相手は行政とは限りません。
企業、他のNPO、学校・・・目指せ！新たな協働のカタチ！

西鎌みんなの家の会

成り立ち

鎌倉の西側の住宅地、坂を上った先に2階建ての白い瀟洒な建物があります。西鎌倉子ども会館という学童保育の場でしたが、役目を終え2020年3月閉館が決まりました。知らせを聞いた有志が、地域住民の憩いの場として建物を有効活用していきたいと西鎌みんなの家の会を発足しました（西鎌倉CONNECT、西鎌倉地区社協、西鎌倉地区町内会・自治会連合会、地域の有志）。

設立の頃

時はコロナ禍、組織作りと会館の基盤づくりのため話し合いをオンラインで何度も重ね、自由利用と占有利用（部屋の時間貸し）の両輪で運営していく方針を決め、同年6月オープンに至りました。

まだまだ自粛の世の中で、来館者数もレンタルスペースの利用者数もなかなか伸びませんでした。それでも会館のルール、建物整備、組織体制を整え、感染症に配慮しながら活動を続けました。また、季節のイベントを企画したり、地域の場に出かけて広報したり、積極的に知ってもらう機会を増やす努力を積み重ねていきました。

一方で、建物の所有者である鎌倉市とは、定期的に利用状況、資金報告を行い、将来的な運営方法を模索していき、現在の形である、建物は西鎌倉地区町内会・自治会連合会の会館として市から無償貸与、運営委託先を西鎌みんなの家の会、となりました。

つながりにより活動内容はさらに多彩に

22年3月に山野楽器から寄贈していただいたピアノのおかげで様々な音楽イベントが開催されています。他にも本格的な演劇、歌、読書活動など多様な文化的活動も行われるようになりました。会員の興味に応じて「図書委員会」、「ピアノ音楽委員会」「イベント委員会」などが発足し、それぞれ、地域の方々と共に楽しめる活動を考え展開しています。

また、2022年4月からは乳幼児親子の居場所としての「こそだてひろば」、不登校児と親の支援の場としての「ひなたぼっこ」をはじめとする自主活動も積極的に主催するようになりました。2023年7月から孤食を余儀なくされている子ども、食事の用意が困難な家庭、ひとりぼっちの高齢者やお手伝いしたい人、その他誰でも、みんなが集まって食事ができるように、毎月第二土曜日昼食に「つながり食堂　みんなのいえ」を開いています。

これら活動の側面には、「みんたべ協議会」や「西鎌倉地区教育懇話会」「かまたの」「まちのコイン」「まちライブラリー」等、事業団体への参加があります。横のつながりが増えることで、例えばフードロスによる食材提供の情報を得たり、防災面で協力できることを申し出たりして、共に手を携えることの重要性を実感しています。

気になる運営資金は？

当初、地区社協と連合会、地元の白山坂自治会の援助（特別会員）が主でしたが、今では第10地区民生委員児童委員協議会、西鎌倉CONNECTや地域の企業や商店、飲食店など、資金面だけでなく技術や食材提供という形でも協力いただいています（賛助会員）。

また、お稽古ごとの定期教室、単発の貸切利用や個人の寄付も増えてきました。会員のボランティアによる運営と合わせて、地域の方々に支えられています。自主活動では事業ごとに、市の「つながる鎌倉エール事業」や民間の基金などの助成金を活用しています。

今後は

近隣にお住まいの方たちのご迷惑にならないような努力、運営基盤の確立、駐車場の確保、活動の広報など今後も変わらない課題はあります。

しかし、当初から、世代を超えた人々がリラックスできる場所であるとともに、やりたいことのある人がそれを実現できる場所として、地域の活性化に貢献したいという思いは変わりません。

その時々に関わっている人々によって変幻自在なハーモニーを奏で、美しい形を成して、みんなの家を形作っているように思います。新しく入ってくる人もみんな温かく迎え入れ、やりたいことを応援し、そこにいてくれるだけで認め合える、そして生き生きわくわく温かなエネルギーに満ちている、そのような場所になっていると思います。

火水金がどなたでも自由に来ていただける日です。どうぞ、一度お茶を飲みにいらしてください。

西鎌みんなの家の会　代表　大迫百合子

新規登録団体のご紹介（12月～2月）

かまくら防災士ネット

来るべき災害に備え、鎌倉に在住在勤の防災士の顔の見える関係作りや行政・市民・NPOなどの各団体間の連携サポートなど地域防災を担う市民団体として2020年より活動を行っています。月に一度の定例会では、防災課題を検討する他、専門家や有識者を招いて勉強会を開催しています。学校の防災学習や各団体等の防災講座などにも講師を派遣するなど、様々な防災活動に携わっています。防災士として行政・市民・NPOなどの連携を図り、ますますの防災力向上を目指しています。

3.11ALL鎌倉実行委員会

東日本大震災で被災した地域を鎌倉から応援・風化防止・鎌倉の防災を考えることを目的として平成25年から鎌倉市との協働事業として復興支援イベント並びに鎌倉市中学生防災サミットを行ってきました。震災から１０年を節目に活動休止していましたが、令和６年元日に起こった能登半島地震を契機に再結集し、再び鎌倉の「心をひとつに」被災地の復興応援と、我がまち鎌倉の防災を前に進めていきます！
https://311.allkamakura.com/

NEWMEかまくら

汚れて不用品となった人形（ドール）を引き取り、きれいにして次の持ち主を探し、お渡しします。またそのドールを使ってSNSなどで街のPRもしています。ドールを介して、温かい心が循環する世界を創ります。不用ドールをリペアする作業で人の心をいやし、その温かい心と一緒にきれいになったドールをお届けします。

神奈川骨髄移植を考える会

骨髄バンクPR、白血病などの血液がんの患者さん、ご家族の支援を目的に活動しています。具体的には骨髄ドナー登録会の開催、講演会などを通じてドナーの募集、骨髄バンクを知っていただくための普及・啓発をしています。併せてがん患者用ケア帽子を作成して治療中の患者さんにエールを共に届ける活動もしています。https://www.bmtkanagawa.com/

かまくら献血部

鎌倉市内で１人でも多くの方に献血に来ていただけるよう活動しています。いざ献血！鎌倉で献血協力しましょう。献血会場での案内ボランティアも募集しています！

おしらせ

「つながる鎌倉エール事業」とは、鎌倉市が市民活動を応援するため、また協働を更に進めていくために実施する事業のことです。令和6年度はさらに新コースも♪

令和6年度「つながる鎌倉エール事業」スケジュール！

・鎌倉市主催 つながる鎌倉エール事業説明会：**4月14日（日）10:00～12:00　鎌倉市役所にて**
スタートアップコース、協働コース、今年新たに**「地域活性化コース」**が設置されました。
どのコースもまとめて一斉の説明会となります。

・NPOセンター主催　エール事業応募者向け勉強会／相談会：**4月27日（土）10:00～11:30 鎌倉センターにて**
※ 詳細、お申込方法などはNPOセンターのホームページをご覧ください。

（ご案内）ロッカー利用団体更新、新規募集！

事務用品、作業機材、印刷用紙などの収納にご利用いかがですか？（年単位）

＜鎌倉センター＞
スチール製（A4 用紙対応 鍵付き） 1,000 円／ 年
木製（A3・A4 用紙対応） 500 円／ 年

＜大船センター＞
ポリプロピレン製（A3・A4 用紙対応）500円／年

（報告）鎌倉市役所若手職員「体験研修」実施

コロナ禍で中断していた、市役所の若手職員を対象とした市民活動体験研修が復活し、12月～2月に行われました。受入れ団体募集の際に多くのご応募をいただきありがとうございました。マッチングの結果13団体、参加職員は37人で市民活動体験研修を終了しました。市職員の市民活動団体への理解促進と今後の市との協働事業の推進につながるよう、引き続きご協力をお願いいたします。

皆様の声をお聞かせください

広報紙「パートナーズ」のご感想やNPOセンターへのご意見、ご要望をお聞かせください。右のQRコードを読み取っていただくとそこから回答できます。

鎌倉市
市民活動センター

NPOセンター鎌倉：〒248-0012　鎌倉市御成町18-10　鎌倉市役所 第2分庁舎
TEL/FAX：0467-60-4555

NPOセンター大船；〒247-0061　鎌倉市台1-2-25（たまなわ交流センター1階）
TEL/FAX：0467-42-0345

登録団体数：325団体
令和6年3月1日現在

※ 登録団体の登録内容（連絡先・代表者・活動内容等）に変更があった場合は、速やかにお知らせください。

4月からNPOセンターのメールアドレスは一つに。鎌倉も大船も同じメールアドレス　rep@npo-kamakura.com